

研究代表者 所属・職：経済学部・准教授

氏 名：吉田 直美

研究課題名：「災害対策基本法」改正による地区防災計画立案への支援～美浜町布土学区における小学校を中核にすえた防災・減災に向けた「住民が積極的にかかわる仕組み」作り～

取り組み状況

- ①美浜町布土学区の自主防災会と布土小学校の協力を得て、2015年9月に、26の小学生登校班の通学路ルートを、自主防災会のメンバーを中心に子供たちの下校時に一緒に歩き、危険箇所がどこにあるかについて班ごとに話し合う機会を作った。
- ②自主防災会と教員、大学生、小学生で通学路の点検し、写真撮影及び各登校班のデータをもとに、通学路における危険地区の確認をした。実施後、担当した自主防災会役員・会員全員をまじえ、危険箇所についての意見交換会を実施した。
- ③11月1日に地域住民への防災教育として、東日本大震災のときの被災地であり、布土と地形の共通点が多く、また、防災活動における先進的な取り組みを行っていた七ヶ浜町花淵浜地区の区長（鈴木氏）を招いて、美浜町民を対象とした防災・減災をテーマとした講演会を開催した。
- ④「リアリティある避難訓練」の実行により訓練への参加率と様々な世代（特により若い世代の協力を得られる）ことを念頭においた地区防災計画について、まとめの作業に入った。
- ⑤2016年2月、自主防災会の役員の研修のプログラムの1つを、美浜町の防災専門官山田氏及び地域の社会福祉施設長の藤原氏とともにレクチャーし、それぞれのすまいの地区の危険箇所について、グループワークをサポートした。

研究成果の内容

- ①布土小学校の通学路点検を小学生と自主防災会の会員・役員、大学生、教員で実施したことにより、危険箇所についての情報交換・共有ができ、更にそのことをきっかけに、現在町が指定している

- 避難所の中に、災害時には津波・土砂被害に遭遇する危険な避難所を確認した。現在、より安全な避難所を別に設定することを検討している。
- ②布土小学校の通学路のハザードマップを作成し、小学校及び自主防災会に配布した。
 - ③美浜町の後援と布土小学校の協力を得て、東日本大震災のときの被災地であり、布土と地形の共通点が多く、また、防災活動における先進的な取り組みを行い、住民の防災意識を高め、事前の対策がかなりなされていたことで、東日本大震災の津波が起こった時に、多くの人命を守ることに功を奏した七ヶ浜町花淵浜地区の区長（鈴木氏）を招いて、その体験について講演会を開催した。
 - ④2016年2月7日の自主防災会の役員研修（防災講習会）のプログラムの一部を担当した。みはま福祉会（セルプアゼーリア）、美浜町防災専門官と講演をし、その後全員で危険箇所の確認とともに、災害時要援護者の把握及び対応についての意見交換をグループワークにて行い、共通認識を深めた。
 - ⑤2016年3月9日、自主防災会2016年度の布土学区防災計画においての方針を決めた。
 - ⑥2016年3月29日、美浜町と日本福祉大学の災害協力協定の総括会議があり、日本福祉大学防災研究会による協力事項として防災訓練、避難訓練、炊き出し訓練、防災講演会を布土において開催したことが報告された。